

## 法勝寺の供僧について

中根 千絵

### はじめに

法勝寺という寺は、現在は存在しない寺であるが、平安の末期には、国家の安寧を祈る寺として、重要な位置を占めていた寺である。承暦元年（一〇七七）十二月十八日に白河天皇の御願寺として、二条大路に面した白河殿の東南の辺りに建てられた。その特徴は、村井康彦氏が「法勝寺は従来の佛教の綜合がじつに法勝寺であつた〔一〕。」と述べられるが如く、宗派をたてないところにあつた。東寺・延暦寺・園城寺・興福寺といった各宗派の権門寺院の僧達を集めて法会を行う〈場〉として法勝寺は機能していたのである。

文学との関連においては、『平家物語』の登場人物、俊寛が法勝寺の執行であり、俊寛を追って尋ねて来る有王が、法勝寺で俊寛に仕えていた者であることが知られている。法勝寺のありさまと俊寛の問題は、『平家物語』を読み解く上においても重要な問題であるが、当面、筆者の関心は法勝寺の宗教上のバランスの取り方にある。それは、同時代に成立した『今昔物語集』の宗教上のバランス感覚に通じるものを感じるからである。筆者が研究の対象としてきた『今昔物語集』は、従来、宗派のバランスの取り方や、歴史叙述の在り方など、平安末期の現実の寺院社会において、不可思議な編纂の在り方を示していると考えられてきた。近年『今昔物語集』享受の研究は急速に進み、

興福寺内で蔵されてきたことが明白となったが②、成立上の問題はさておき、宗派のバランス上の問題は、別の観点から位置付けられるべき問題と考える。どこで成立したにしろ、宗派上のバランス感覚が、この時代に必要とされたことは否めない事実である。筆者は、法勝寺のありさまを頼りに、誰がそのようなシステムを、何の為に必要としたのかを考えてみたいと思っっている。本論では、そのことを考える端緒として、法勝寺のありさまを記録した部分を提示したいと思う。この記録から何が読み取れるかについては続稿を期したい。

〈注〉

(1) 村井康彦氏「六勝寺と鳥羽殿」〔『京都の歴史2』一九七一年〕

(2) 文教大学大学院 浦部誠氏「興福寺の今昔物語集―奈良本は松林院本か―」(二〇〇一年春 説話文学大会 於同志社女子大学)

\*本文は『中右記』からの引用である。

それ以外のものは、その都度、出典を記した。

(1087)  
寛治元年

正月 八日 法勝寺無呪師並音楽。

三月廿一日 法勝寺御念仏初。〈三ケ日。〉

六月 二日 暁院初有御幸法勝寺。

九月廿二日 於法勝寺常行堂。〈中宮御堂。〉御所御経供養。暁始不断念仏也。請僧廿口。導師山座主。

九月廿四日 今夕御念仏結願也。

十月十四日 院御幸法勝寺並鳥羽殿。

寛治二年

正月十三日 今夜院、齋宮、殿、北政所、御法勝寺、上皇有隨身詔。

三月十二日 院有御幸法勝寺。依御念仏初也。

八月十三日 院曉有御幸法勝寺。

十月廿八日 大乘会結願。院御幸法勝寺。

寛治三年

正月八日 上皇有御幸法勝寺。

正月十二日 上皇御幸法勝寺。

正月廿五日 上皇御幸法勝寺。

三月廿六日 於法勝寺御念仏始。上皇有御幸。

寛治四年

正月八日 依修正、御幸法勝寺。齋宮同御。

正月九日 陽明門院御幸法勝寺。

三月十日 法勝寺御念仏始也。

五月廿六日 於法勝寺女院令修八講御。仍上皇有御幸。

十月十八日 法勝寺大乘会始。依行幸被行也。

寬治五年

三月 十日 法勝寺御念仏初也。暁上皇御幸彼寺。

寬治六年

正月 八日 御齋会初。法勝寺金堂修正之間、有音樂、無呪師。

三月 十日 法勝寺阿弥陀堂不断念仏之初也。

三月十三日 法勝寺御念仏結願也。

寬治七年

一月 六日 法勝寺阿弥陀堂修正也。

一月 八日 上皇依金堂修正初有御幸法勝寺。但自六条殿太伯神之方也。

一月 九日 上皇又御幸法勝寺。

一月十一日 陽明門院有御幸法勝寺。且為令逢修正御、且為上皇御對面也。

一月十二日 前齋宮（上皇同産弟）令入法勝寺給。十四日暁還御。

一月十四日 金堂修正結願也。上皇亥時許自常行堂御所令渡金堂御。〔此間每夜令渡御也。自正面間西懸御簾為御所。〕

二月 八日 法勝寺修二月也。於常行堂所被行也。

三月 八日 上皇有御幸法勝寺。是為御覽新御塔之處也。次於常行堂前庭人々有上鞠之興。

三月廿六日 法勝寺阿弥陀堂御念仏被始行。去十日日式日也。依春日御幸引及今日也。

六月廿七日 上皇於「法勝寺」供「養丈六觀音像曼荼羅供」。導師權僧正隆明。讚衆廿人。同日抽「出赦」免左右獄。

徒各三十人。又流人前加賀守藤原為房有勅召返赦免。『扶桑略記』  
定申法勝寺大乘會僧名。

十月十二日 法勝寺大乘會始也。例式日来二十四日也。雖然今日被始行也。

故皇后宮御法事被修云々。大乘會後僧侶參入。

十月廿一日 從二位藤原朝臣親子薨。太上天皇唯一之御乳母也。法勝寺之東南邊吉土、建立堂舍。大乘會間、從今日止音樂。

十月廿四日 大乘會結願。

(1094)  
嘉保元年

正月 六日 法勝寺阿彌陀堂修正。

正月 八日 今日御物忌間、勤仕男女房陪膳。供夜侍後、與左京權大夫藏人大輔同車參法勝寺。無呪師、但有音樂。

正月 十日 今夕先參內。次與源中將同車、參入法勝寺並法成寺兩寺。  
正月十一日 與藏人兵部大輔同車、參入法勝寺法成寺。

正月十四日 陽明門院御惱重也。有御幸陽明門院御所鴨院。然間御齋會結願。公卿一人不參。或參法勝寺、或供奉御幸事。上皇還御六條殿、被仰云。人々今夜皆可參法勝寺者。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月。

三月 十日 法勝寺例御念仏初也。

閏三月五日 法勝寺阿彌陀堂御念仏初也。

七月廿六日 院御仏百体、從仏師法橋円勢許、奉送法勝寺。〈等身觀音百体。〉

九月廿二日 故中宮御国忌也。仍從此曉法勝寺御念仏始。

九月廿四日 法勝寺御念仏結願也。

十月十二日 次被定申法勝寺大乘會僧名。〈卅口。〉又同法會講師宣旨被下。〈阿闍梨增珍、園城寺。〉

十月廿五日 從昨日法勝寺大乘會也。但被止音樂。

### 嘉保二年

正月 九日 上皇有御幸法勝寺。関白殿初令參御幸給也。

正月 晦日 美乃国所領住人榎礫神人事、件処法勝寺領也。

二月 八日 法勝寺常行堂修正月者。

二月十三日 美乃国法勝寺御庄中住人、榎礫神民事、早仰庄本主等、可令召進也。雖法勝寺庄住人、於濫行者不

可左右者。

三月 十日 法勝寺御念仏初。

五月 十日 女院令參籠法勝寺円堂給。是例御邪氣令発御也。仍有種々御祈。上皇同渡法勝寺御所。〈前大僧正覺

円坊也。本為御所、御寺西別処、水石風流地也。〉

五月廿一日 造営法勝寺御塔之間、臨時召物被免除了。仍不進濟、相尋先例者。承保比法勝寺金堂阿弥陀堂造作之程、皆雖被免臨時召物、至遷宮事者。依為無止神事不被免。近者則伊勢国雖造営、興福寺又以勤仕此役之由。

五月廿七日 曉一院並女院從法勝寺還御。女院御惱令得尋常給也。法勝寺円堂。〈丈六愛染明王者。〉靈驗誠以揭焉也。

九月廿四日 公家有種々御祈。法勝寺六觀音御誦經。

十月 二日 上皇從六条殿有御幸法勝寺。

十月廿四日 今日法勝寺大乘会依為式日可被始行也。然而依山僧乱可延引由。

十二月十一日 上皇從法勝寺御幸京極殿北政所。御堂御覽。

十二月十五日 法勝寺大乘会始。〔五ヶ日〕

十二月十九日 法勝寺大乘会結願。

十二月廿六日 法勝寺擬補六通所入也。

永長元年  
(1096)

正月 八日 上皇新女院御幸法勝寺。

正月 九日 御幸法勝寺。

正月 十日 御幸法勝寺。

正月十二日 上皇並女院御幸法勝寺。

正月十四日 上皇女院從法勝寺還御六条殿云々。

二月 一日 上皇女院御幸白川云々。女院聊不例御也。仍令參籠法勝寺給。

二月十七日 法勝寺於金堂、被講心經。以御導師範慶闍梨為導師。又令走呪師五牛如修正云々。

二月十九日 上皇並女院從法勝寺還御六条殿云々。

三月十九日 法勝寺阿弥陀堂不断念仏被始行。仍申時許御幸法勝寺。

三月廿一日 法勝寺御念仏了。

六月廿三日 上皇有御幸法勝寺云々。

六月廿四日 上皇於法勝寺講堂、囑卅口僧侶供養大般若經並転読。以權少僧都隆禪為御導師云々。

十月廿七日 法勝寺常行堂不断念仏被始行。△二ヶ日△  
十一月廿四日 辰時許大地震。法勝寺御仏等光多損。  
十二月十七日 大乘会始〈但無歌舞也〉。  
十二月廿一日 法勝寺大乘会結願也。

承徳元年  
(1097)

正月 六日 法勝寺阿弥陀堂修正也。  
正月十二日 大殿従法勝寺令参内御。  
九月廿二日 法勝寺常行堂御念仏始。△二ヶ日也△  
十月廿四日 法勝寺大乘会延引。  
十一月廿六日 法勝寺大乘会始。講師永清闍梨。

承徳二年

正月 八日 一日御物忌云々。法成寺金堂修正之間、共有音楽無呪師者。法勝寺音楽呪師共被止了。御齋会。  
三月 七日 法勝寺三綱〈束帶〉。参賀。『御室相承記』六月十三日上皇有御幸法勝寺云々。  
六月 廿日 上皇於法勝寺有一日大般若御読経云々。  
七月廿一日 院仁和寺御子、〈名覚行〉。法勝寺成檢校後初拜堂彼寺云々。  
九月廿二日 人々被参仕法勝寺。於常行堂従今日寅時三ヶ日間有不断念仏也。僧廿口。権大僧都慶朝為御導師。  
九月廿四日 法勝寺今夕是常行堂御念仏結願也。御導師範慶。  
十月十六日 被定申法勝寺御塔供養僧名。慶憲、〈専寺〉。慶助、〈専寺〉。定円、〈専寺〉。勝暹、〈東大寺〉。法印



權大僧都賴尊。增信、〈專寺〉。知賢、〈專寺〉。賴円、〈專寺〉。大僧都隆禪。法眼和尚位実覺。權律師行政。權律師正真。權律師永縁。

十月廿三日 有法勝寺御塔供養。

十月廿四日 參法勝寺、依大乘会始也。

十月廿八日 參法勝寺大乘会結願。

康和元年  
(1099)

六月廿三日 太上法皇自鳥羽殿還幸法勝寺。『本朝世紀』

十一月廿二日 法皇幸白川法勝寺。『本朝世紀』

康和四年

二月廿四日 法王有御幸白河。次御法勝寺常行堂御所。明後日依御方違、俄可有行幸也。二月廿六日有行幸法勝寺。

四月廿七日 於法勝寺講堂、上皇有御賀法会。呪願權僧正增譽。導師法印慶朝。

六月廿九日 於法勝寺藥師堂、公家被供養丈六大威德像。〈院助法橋造立。夢御祈者〉。御導師權僧正良意引率讚衆廿口。〈此中僧綱五口〉。

七月十二日 御幸法勝寺並新御願寺御覽。

七月廿日 有行幸法勝寺常行堂東御所。

九月廿二日 法勝寺常行堂御經供養。導師權少僧都慶增。

九月廿三日 法勝寺常行堂御念仏。

九月廿四日 法勝寺常行堂御念仏結願。

十月廿四日 法勝寺大乘会初日也。講師仁証。故大殿禪師君、蘭城寺人也。

十月廿七日 法勝寺、今日大乘会五卷日也。

十月廿八日 大乘会結願也。

十二月十六日 一院々司等、於法勝寺講堂、供養經卷。〈壽命經、藥師經。〉是為御賀也。山座主慶朝法印為導師。僧正增譽為呪願。

### 康和五年

正月 八日 有御幸白河。金堂修正始也。先於法勝寺金堂。但無呪師、依被忌也。〈有樂。〉

正月 九日 參修正、先法勝寺、次尊勝寺。

正月十一日 參白河兩御願寺修正。

正月十二日 先參法成寺、頃而參入法勝寺。從今夜有呪師。

正月十三日 今夜俄願御幸白河之由。先法勝寺、次尊勝寺。

正月十四日 馳參法勝寺。戌刻許御幸事成。

三月十二日 法勝寺阿弥陀堂不断念仏結願也。

六月廿六日 於法勝寺百座仁王講云々。是太上皇御祈也。依本寺怪異被行者。

十月十六日 次大乘会講師事令申之処、覺巖雖非上科学生。偏常住法勝寺、勤功勝人。今年給講師請何事有哉者。

晚頭參内申此御返事旨。入夜退出。今夕大乘会講師被仰覺巖。〈延曆寺。〉

十月廿四日 法勝寺依大乘会始也。講師延曆寺覺巖阿闍梨。〈故常陸守家房朝臣子也。〉朝座、問者真願僧都。三礼

呪願法印覺信。已講俊円、問者造珍律師。

十月廿七日 右大臣殿参法勝寺大乘会給。是五卷之日也。

十二月六日 法勝寺クルマカシ召誡条如何、驚尋処、件物有家政所。仍尋子細処、為隆朝臣沙汰也。仍早免了。頭弁重資朝臣彼法勝寺行事弁也。仍為御使來也。〔殿曆〕

(1104)  
長治元年

正月 八日 予参白河門法勝寺。

正月 九日 御幸法勝尊勝寺。呪師十余手。

正月十一日 参法勝尊勝方寺。

正月十二日 参法勝尊勝寺。

正月十四日 院有御幸法勝尊勝兩寺。

三月 十日 法勝寺阿弥陀堂御念仏初也。

三月十二日 法勝寺御念仏結願也。

六月十一日 神今食無行幸。是法勝寺尊勝寺中、從去月廿九日下僧中穢引來卅日穢。僧侶参彼寺之間、丙穢滿天下之故也。

九月廿四日 参法勝寺常行堂御念仏結願。御導師增政律師。

十月廿六日 法勝寺大乘会。

十一月十一日 上皇為御方違。御幸法勝寺。

十二月十二日 上皇御幸法勝寺。

長治二年

正月 六日 法勝寺阿弥陀堂修正。

正月 九日 法勝尊勝寺修正。

正月 十一日 有御幸法勝寺尊勝寺。

正月 十三日 有御幸法勝寺尊勝寺。

正月 十四日 今夜上皇依有御幸法勝寺尊勝寺。東寺新長者權少僧都覺意加持香水。權律師永緣讀立。問者一人。

〔已講賢豪、忠禪。〕

三月 十日 法勝寺御念仏初。

九月 廿二日 法勝寺常行御念仏。是故中宮御忌也。於東御所方依例御經供養。証觀僧都為御導師。

十月 十八日 法勝寺大乘會。式日廿四日也。講師延曆寺經賢阿闍梨。問者權大僧都証觀。呪願權大僧都長覺。三礼

已講覺嚴。問者權少僧都永緣。

十月 廿一日 法勝寺大乘會。五卷日也。〔依講法華經日也。〕問者園城寺範憲。

十月 廿二日 參法勝寺給。問者園城寺慶祐。呪願權大僧都長覺。三礼已講覺嚴。

(1106)  
嘉承元年

正月 六日 法勝寺阿弥陀堂修正也。

正月 八日 法勝寺修正。〔無音樂呪師等。〕

正月 十日 法勝寺、尊勝寺修正。

正月 十一日 參法勝尊勝兩寺。

正月 十三日 法勝寺、尊勝寺修正。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月者。

九月廿二日 法勝寺御念仏始三ヶ日也。

九月廿三日 法勝寺御念仏。

十月廿七日 法勝寺大乘会。今日五卷之日也。朝座講師阿闍梨禪仁。〈園城寺人。〉

### 嘉承二年

正月 六日 法勝尊勝兩寺阿弥陀堂修正。

正月 八日 予從此参円宗寺。当寺供僧本数四十余人也。而兼法勝寺尊勝寺供僧人々。依参白川不参此御寺。又但当时供僧十人許中、或有見障不参也。無呪師。皆被召籠法勝寺者。大導師法橋源快老爛無極。上皇有御幸法勝尊勝寺等。正月十日有御幸法勝尊勝兩寺云々。

正月十二日 上皇御幸法勝尊勝兩寺云々。

正月十四日 人々被参白河法勝寺。事了後上皇御尊勝寺之間也。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月也。

三月 十日 法勝寺御恒例阿弥陀堂御念仏始。

三月十一日 法勝寺阿弥陀堂御念仏。

六月 四日 今日院於法勝寺被修百座仁王講云々。

九月廿二日 今日故中宮御国忌。法勝寺常行堂御念仏始也。

十月廿四日 法勝寺、恒例大乘会初也。講師延曆寺定教阿闍梨也。無音楽。

十月廿八日 大乘会結願。権大僧都定真。已講覺嚴為呪願三礼。

(1108)  
天仁元年

正月 六日 法勝寺阿弥陀堂修正。行事権少僧都増珍為導師。

正月 九日 法勝寺修正。大導師権少僧都増珍。

正月 十日 依令参入法成寺給也。其後参尊勝寺修正。法勝寺事了。

正月 十一日 入夜参殿下。為御共参法勝寺。

正月 十三日 入夜参殿下。右大将被参仕。為御共参法勝寺。

正月 十四日 参法勝寺円宗寺。是為公家御願寺之故也。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月云々。

二月 十六日 御于法勝寺阿弥陀堂。

二月 廿一日 参法勝寺。上皇白地為御湯殿還御常行堂御所之間也。申時許還御阿弥陀堂御所。

二月 廿五日 参法勝寺。今朝以法勝寺上座法橋俊覺為法眼之由被下。是寺家之勸賞也。三月十日法勝寺阿弥陀堂

御念仏初。

五月 廿九日 法勝寺尊勝寺供僧被仰下。

九月 廿二日 法勝寺常行堂御念仏始也。

九月 廿六日 上皇於法勝寺金堂被修百座仁王講。総講師権少僧都増珍。呪願権大僧都仁豪。

十月 六日 太上皇有御幸法勝寺。被行千僧御誦經奏楽云々。権少僧都増珍為導師。丈六延命凶絵供養。觀音經人々進上。興福寺近日大衆乱発。仍不召也。

十月 廿四日 法勝寺大乘会延引。

十二月 十七日 法勝寺大乘会日時可勘申。則勘文持来。〔陰陽寮兼召儲也。〕披見之处、法華会来廿五日。大乘会来廿日也。

十二月 廿日 法勝寺大乘会始行。

(1110)  
天永元年

九月廿二日

法勝寺常行堂御念仏始也。『殿曆』

天永二年

正月 十日

中宮御堂修正也。皇后宮權大夫以下被參。呪師二手。於南庭走之。自法勝寺被召進云々。『長秋記』

正月十九日院於法勝寺被行千僧御誦經。講師權少僧都永縁。

三月 十日

法勝寺御念仏始。

五月十七日

院有御幸法勝寺。為公家御祈、被行千僧御誦經。〔仁王經。〕

五月廿一日

上皇有御幸法勝寺。於阿弥陀堂被行始卅講。〔興福寺十人、延曆寺十人、蘭城寺十人、各有學頭二人〕

五月廿六日

依卅講五卷日、上皇有御幸法勝寺。〔興福寺、延曆寺、蘭城寺十學生、合卅人。權大僧都永縁、權少

僧都公伊、權律師永清、定円、(學頭。) 經尋、(學頭。) 已講定教、(學頭。) 長譽、覺巖、定暹、覺

基、忠尋、(學頭。) 三井寺學頭禪仁不召是依有故也。凡僧良賀。頼心、(學頭。) 湛秀、被召加也。

被充唯識第一二卷。玄義上五卷〕

五月廿七日

法勝寺、今日三座被行。經尋律師。忠尋已講。

六月 一日

法勝寺卅講。

六月 三日

參法勝寺。日者所被修之卅講結願也。

九月廿二日

法勝寺常行堂御念仏始。

十月十三日

件法會於法勝寺可被行歟。上皇可御幸。

十月廿四日

大乘會始日也。法勝寺講堂。衆僧權大僧都永縁。講師延曆寺巖勝阿闍梨。講花巖經。問者權大僧都

永縁。呪願永縁僧都。三礼已講覺基。問者權律師定円。

十月廿五日 殿下参法勝寺大乘会給。今晚上皇依御方違御幸法勝寺阿弥陀堂御所。

十月廿六日 大乘会五卷也。

### 天永三年

正月 六日 法勝寺尊勝寺阿弥陀堂修正。

正月 八日 法勝寺修正呪師八手御覽了。上皇還御。

正月 九日 参法勝寺。御導師覺巖。〈尊勝寺相兼〉。事了渡参尊勝寺。

正月十一日 有御幸法勝寺。呪師十二手。

正月十二日 入夜殿下相具女房令参法勝寺給。

二月 八日 今夕法勝寺常行堂修正。

三月 十日 法勝寺御念仏初。

四月廿一日 来廿五日依御賀可有御幸法勝寺。

四月廿五日 為奉賀法王六十算。法勝寺設齋会。仍院有御幸。別当大僧正增誉。權大僧都寬慶。權大僧都永縁。

六月 五日 法勝寺恒例卅講始也。依有御幸。大僧正增誉。〈本寺別當〉。權大僧都永縁。勝觀。權少僧都經尋。

權律師永清、覺巖、已講定教、長誉、定暹、巖勝、忠尋、覺基、凡僧賀堪、秀敬、見俊。此外十学生  
〈延曆寺十人、蘭城寺十人、興福寺十人〉有紀文。唯識論三四卷。玄義下五卷。是常住御寺之輩也。

六月 六日 参法勝寺。

六月 八日 法勝寺卅講。

六月十二日 参法勝寺。



六月十四日 参法勝寺。

六月十六日 有御幸法勝寺。是依卅講間也云々。

七月十六日 公家於法勝寺被行千僧御読経。〈觀音経〉。

八月 五日 被築始壇之時先地鎮定事也。円宗寺地鎮ハ濟尊僧都、法勝寺ハ覺尋座主、尊勝寺ハ經範法務也。又法勝寺内、諸堂後追被立加時仁和寺宮地鎮。

九月廿二日 中宮御国忌人々可参法勝寺之故被着束帶。今日依為御忌日又有例御経供養事。先参常行堂逢御念仏。三箇日也。導師権大僧都永縁。朝座講師嚴勝。〈問者経尋律師〉。夕座講師忠尋。〈問者長譽〉。於法勝寺可被行仏事也。

十月 朔日 法勝寺大乘会始。講師園城寺覺俊阿闍梨。問者経尋僧都。呪願権大僧都永縁。三礼已講嚴勝。

十月廿七日 依大乘会五卷日、参法勝寺。

十月廿八日 大乘会結願。

十一月廿四日 「明日御賀事如何。」予申云。殿下被仰云。「明日之事、必可被行也。且亦人々被参法勝寺、御装束事可見」者。依殿下仰、参法勝寺。中央間仏前安置御等身薬師三尊像。

十一月廿五日 鶏鳴之間、依不審馳参殿下。御風頗宜御。仍先直衣。早々渡御法勝寺常行堂御所。是為令休息給也。午剋法王出御御幸。是一日可准御齋会之由。次被染行事。呪願興福寺別当僧正覚信。導師同権別当権大僧都永縁。権大僧都寛慶、行尊。権大僧都澄観。権少僧都行勝。已講隆覚。摂政奉賀上皇算之礼。従昔未有如此事。希代之勝事。殿下欲作丈六延命、而依上皇仰被止。奉造等身薬師仏也。

(1113)  
永久元年

正月 九日

参院。有御幸。〈白河〉修正月也。子剋許還御。

〔殿曆〕

正月十一日 參法勝寺。女房相具見呪師。及曉更還了。

〔殿曆〕

正月十二日 今夜有御幸。余參入。夜中許還御。

〔殿曆〕

正月 廿日 今日於法勝寺奉為公家。有千僧御誦經。已初程有御幸。

〔殿曆〕

三月 一日 今日々蝕也。公家於法勝寺有大般若御誦經。

〔殿曆〕

三月十二日 法勝寺御念仏結願云々。

〔殿曆〕

閏三月九日 法勝寺百座仁王講。有御幸。

〔長秋記〕

閏三月廿八日 法勝寺一切經供養。有御幸。講師大僧都永縁。已講定暹。

〔長秋記〕

六月十七日 今日雷公落法勝寺御塔云々。

〔殿曆〕

九月廿二日 法勝寺御念仏初也。

〔殿曆〕

十月廿四日 大乘会始也。有御幸法勝寺。権大僧都永縁。問者已講覺樹。問者覺信。

□日 參大乘会五卷。

□日 大乘会結願也。大僧都永縁已講覺基為呪願三礼。

十月廿五日 法勝寺大乘会。有御幸法勝寺。権大僧都永縁。当講山証教阿闍梨。

十月廿六日 參大乘会五卷。

十月廿八日 大乘会結願也。大僧都永縁。已講覺基為呪願三礼。

永久二年

正月 八日 有御幸法勝寺。

正月 十日 有御幸法勝寺。

正月十一日 入夜參殿下。為御共參京極殿並法勝寺。

正月十二日 參法勝寺並尊勝寺退出。

〔殿曆〕

二月五日 於法勝寺被行百座仁王講。〔奉為院寺家所行也。〕

〔殿曆〕

二月廿日 院於法勝寺被行千僧御誦經。〔皆悉延曆寺僧侶也。〕講師誦師權律師永清、賢豪。散花權律師覺嚴。

呪願座主、三礼仁惠法眼。座主法印權大僧都仁豪。前少僧都貞尋。〔久不出仕今日參仕〕法眼尋仁、仁惠、相命、經賢、覺實、法橋行嚴、賴延。皆延曆寺人。

二月廿五日 今朝俄聞有御幸之由。辰剋許參院。乍御車御覽地形、依可寄御堂也。次御覽廻法勝寺中、桜花盛開。

三月 四日 資清申云、「從法勝寺所擲進之殺害人之犯人二人〔法師童。〕將來。令問之処不承伏。」

三月 六日 又於法勝寺中鬪鷄之間害人犯人中童一人不誤者被擲事。仰云、「早可免給。」仍可免之由仰資清了。

三月 九日 法勝寺御念仏從明日被始之間、寄檢非違使二人〔宗實所勞、資清重服。〕有障。可令參誰人哉。

三月 十日 法勝寺御念仏初。

三月 十二日 法勝寺御念仏結願。

三月 廿六日 於法勝寺四至內鴨川辺取魚犯人説兼召取將來。是今朝從法勝寺付資清訴申之犯人也。

三月 廿九日 法勝寺新阿弥陀堂壇築始。

四月 四日 又於法勝寺材木下部下女為祇蘭神人被打損事。依大藏卿奉被下使庁也。且触本社、且可召取之由仰

了。則將來、解神人職可給獄之由仰了。

四月 八日 是為御覽新堂壇。有御幸白河泉殿也。

四月 十九日 今日院新堂雖可有棟上。依当吉田祭猶延引。

四月 廿日 一夜二条朱雀辺、法勝寺小綱下女被剥疑者、一昨日令勘問処、大略戲事歟。就中彼小綱不為愁由所

申也。仰云、聞食了。然者可免給歟。

五月 九日 法勝寺四至內、小濫行出来、是善光寺別当從者等出事云々。

五月 十日 昨日法勝寺四至内濫行事、可尋者、仰其旨了。

五月 廿日 法勝寺卅講始。

五月廿一日 有御幸白河。法勝寺阿弥陀堂御所卅講。

五月廿五日 法勝寺卅講。

五月廿七日 有御幸法勝寺、卅講間也。

六月 五日 法勝寺卅講結願（十五日滿了）

六月廿七日 有御幸白河泉殿。御覽造作了。還御大宮二条御所。是從明日依可有五壇御修法也。

七月十四日 法勝寺辺地注文給之。早占要所可給覺晴者。是先日依申請也。恐悅之由奏了。

七月十七日 彼法勝寺下部子法師、窃盜已承伏之由、触法勝寺律師了。承了由返事所申也者。

七月廿一日 於西对有供養。転読大般若經事。權大僧都永縁講師。法勝寺十学生卅口為題名僧。御馬給仏師円勢法師。

七月廿四日 資清来云。殺害法勝寺花執者将来。已承伏。給左獄了。

八月 三日 酉時許頭辨送書云。覺晴被補法勝寺堂供僧者。為申恐悅之由。

八月廿一日 奈良小僧覺晴、過此三会后、明年三月以後、可令常住法勝寺辺之由、付宗実奏了。仰云、尤可然事也。来廿七日可受講堂供僧任符之由、同以奏聞。仰云、聞食了。

八月廿七日 請印賢晴法勝寺講堂供僧官符之間、右大弁長忠追參結政方。算過之後弁官不着座事也。從法勝寺、小綱持来講堂供僧官符。擬講覺晴於出居見之。依小綱申返給。入筥、覺晴夜前從奈良參上也。則擬講令法勝寺講堂、依吉日也。近代供僧不拜堂云云。只今參詣也。又於所作者。維摩会以後可令勤仕也。又、白川地一所、從院所給覺晴也。件充文從上座律師許所送也。

九月廿三日 法勝寺常行堂御念仏始也。權大僧都永縁導師。

九月廿四日 将来法勝寺四至内濫行人、暫仰可令候散禁之由了。是上座律師之所擲進也。法勝寺常行堂御念仏結願。已講嚴勝導師。

十月廿八日 參法勝寺大乘會結願給云々。講師頼心。

十一月七日 先中將為家去夜窃盜入。以資清經則令問之処、嫌疑者在法勝寺四座内也。奏院追可沙汰由仰了。

十一月八日 又奏申、為宗輔宅中去夜窃盜入。万物被取了。青侍一人嫌疑、件男宅在二条京極法勝寺四座内。

十一月十六日 書詐文之男在法勝寺御領中如何。仰云、可召出。則仰宗実了。

十一月十九日 院白河新御願御仏阿弥陀仏丈六九体初奉渡新堂。

十一月廿九日 白河新御願寺供養也。仍有行幸。法印權大僧都行尊。權大僧都寬慶。呪願權僧正寬助。導師僧正覺

信。權大僧都公伊。權少僧都增珍。

仁和寺宮弘曉御仏開眼。今夜供僧三人。上座一人被成云々。供僧三人、(範覺(東寺)教尊(山)相範(山) )、上座(信縁。法勝寺上座律師、增覺弟子也。興福寺人。)

新御願之地、本是覺田大僧正房也。法皇仰備前守正盛令作堂舎。

十二月十八日 又奏云、去夜高畠下人宅強盜入八人之中、三人被射殺了。二人擲取、三人逃脱了。但件同類宅一所ハ法勝寺四至内也。一所ハ七条西洞院者。是今朝宗実所申也。仰云、今朝宗実所申此旨也。於法勝寺四至内、宗実彼御寺寄檢非違使也。早可尋之由被仰也。

### 永久三年

正月 八日 始御幸。仍參入。法勝寺修正初日也。還御後退出。

〔殿曆〕

正月十一日 有法勝寺御幸。

〔殿曆〕

正月十三日 入夜有法勝寺御幸。參入。

〔殿曆〕

正月十四日 有法勝寺御幸。

〔殿曆〕

正月十九日 上皇於新阿弥陀堂、有尊勝陀羅尼供養事。余早日參院、午剋許有御幸。事始之後、依御退出。

〔殿曆〕

二月 二日 新御堂修二月也。西剋參院。已御幸成了。

〔殿曆〕

七月 十日 上皇有法勝寺御幸。

七月 十一日 今日於法勝寺、公家被行千僧御読經。公家被行千僧之時有御幸年々。〔臨時御祈、觀音經。〕〔山槐記〕

十月 廿四日 大乘会始也。有御幸。先御覽新造御所。問者大僧都永縁。呪願權大僧都永縁。三礼已講定暹。

十月 廿五日 參大乘会。

十月 廿六日 參大乘会。〔院御幸白河御所。〕

十月 廿七日 參法勝寺大乘会五卷。院御幸白河御所。

十月 廿八日 參法勝寺。呪願大僧都永縁。三礼已講頼心也。

### 永久四年

正月 廿九日 白河院御発心地大事ニテ種種御祈アリ。増誉・隆明無其験之間、結句今度凡自可落之由被仰。法勝

寺円堂ニ令籠給処落候畢。依弥御帰依不輕云云。〔幸心鈔〕三

六月 五日 御幸新御堂云々。〔殿曆〕

### 元永元年<sup>(1118)</sup>

正月 六日 節分也。院為御方違可御法勝寺南大門辺者。

法勝寺尊勝寺阿弥陀堂修正也。後聞、院御幸法勝寺阿弥陀堂修正。

正月 八日 皆人々被參法勝寺。

正月 十日 法勝寺尊勝寺修正。

正月 十一日 入夜參法勝寺尊勝寺返。(二)

正月 十二日 今夕可有御幸也。

正月 十四日 御齋會並御法勝寺。相分人々有其催也。呪願權僧正行尊。三礼已講湛秀。權少僧都嚴覺。權律師定

海。當講信永。法印權大僧都永緣。濟意大法師。維覺大法師。尋意大法師。真覺大法印。經覺大法師。相仁大法師。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月。導師寬嚴云々。已講覺晴還來談也。

二月 十六日 法勝寺可被行千僧御誦經也。

公家於法勝寺被行千僧御誦經。院有御幸。講師法印永緣。誦師權大僧都增智。權大僧都行勝、公伊。權律師禪譽、禪仁。呪願權僧正行尊。三礼權少僧都実覺。

三月 十日 恒例法勝寺御念仏始也。仍有御幸。嚴勝已講。權律師真尊。堂僧十二人〈延曆寺東塔六人。西塔三

人。横川三人〉御寺供僧々綱已講凡僧等相分四番也。

三月 十一日 參法勝寺阿弥陀堂。

三月 十二日 御念仏結願也。有御幸。

三月 十五日 中宮初有大般若經。僧卅口。法印永緣御導師。權律師覺嚴為呪願。已講永範為三礼。

晚頭院有御幸法勝寺。渡阿弥陀堂御所。九壇阿弥陀護摩。又夜半渡御五大堂。有五壇御修法也。七箇日院可御法勝寺也。五壇〈法眼尋仁、相命。凡僧行延、慶実、範覺〉九壇〈僧正寬助。大僧都行

勝、增智。少僧都嚴覺。法眼明覺。權律師禪与、禪仁。已講忠尋。阿闍梨承覺〉

六月 廿一日 院母女御之国忌。於法勝寺阿弥陀堂被行。僧十口。永緣法印為講師。

八月廿三日 馳参法勝寺。催懈怠事。御幸。金堂三百口。東西廊各三百口、五十口。講師法印永縁。読師権大僧都増智。唄師二人。〈権大僧都行勝、公伊〉。権律師覚俊発音。呪願権僧正行尊。導師法印永縁。参法勝寺常行堂御念仏。

十月廿四日 大乘会始也。依御幸辰許参院御所。先御覧新御願作事。則入御従法勝寺西大門。呪願法印永縁。講師園城寺覚心阿闍梨。嚴経。三礼已講信永。問者公尊律師。

十月廿八日 依大乘会結願、参法勝寺。朝座問者覚晴。問者祐禪。呪願法印永縁。三礼已講信永。

十月廿九日 法勝寺卅講被始云々。

十一月二日 法勝寺阿弥陀堂。令還卅講。

## 元永二年

正月 六日 法勝寺尊勝寺阿弥陀堂修正。

正月 八日 諸寺修正。法勝寺。今夕御幸法勝寺最勝寺、每夜御幸七箇夜。

二月 二日 白河院御料新阿弥陀堂修正月也。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月也。

二月廿六日 於法勝寺有千僧御読経。講師法印永縁。読師律師覚嚴。唄師二人〈権大僧都増智、法眼相命〉。呪願権大僧都行勝。三礼律師禪譽。

三月十一日 参法勝寺阿弥陀堂御念仏。

六月 七日 興福寺法勝寺可参賀中宮也。別当僧正寛助。権別当権僧正行尊。〈法務〉。上座権律師増覚。寺主法橋嚴清。

九月廿二日 法勝寺常行堂御念仏初。



十月廿四日 季御読経結願了。僧侶皆渡参法勝寺。始大乘会。講師山覚基阿闍梨  
十月廿七日 参法勝寺大乘会五卷。

十一月八日 官符披見之所、法勝寺権上座尋縁官符、並五節預給料官符等也。

十一月廿二日 御幸法勝寺。是依卅講初也。

十二月六日 参法勝寺卅講結願。

保安元年<sup>(1120)</sup>

正月 八日 夕院御幸法勝寺最勝寺。

正月 九日 今夕院御幸法勝寺最勝寺両寺。

正月 十日 今夕御幸法勝寺。中宮女房見物呪師七手。

正月十一日 今夕院御幸法勝寺。御覧呪師。皇后宮女房参入見物云云。

正月十三日 夜院御幸法勝寺。六条院女房参入。見呪師云云。

正月十四日 院御幸法勝寺最勝寺。

二月 二日 白河新阿弥陀堂修二月被行云々。

二月 八日 今夕法勝寺常行堂修二月被行云々。

三月 十日 法勝寺御念仏初。

三月十五日 公家於法勝寺千僧御読経。仍院御幸。導師、〈法印永縁〉。読師、〈権少僧都定円〉。唄師二人、〈権大僧都寛慶、公伊〉。散花師二人、〈権律師覚嚴、靜仁〉。〈僧綱十五人。僧正二人寛助、行尊。不行道也。〉。呪願三礼。〈僧正寛助、権大僧都増智。〉

四月廿七日 院御幸法勝寺御仏供養。僧正寛助為導師。

五月 朔日 有御幸法勝寺阿弥陀堂。是例卅講被始行也。法印永縁。少僧都定円。權律師覺嚴、忠尋、覺俊。已講

湛秀、覺基、覺晴。住学生卅人。

五月 三日 法勝寺卅講。

五月十五日 法勝寺卅講結願。講師已講覺譽。問者高覺。講師已講湛秀。問者宗覺。

六月廿九日 上皇於法勝寺金堂被修百座仁王講。

九月廿二日 法勝寺常行堂御念仏初。

九月廿三日 從今日此寺八講始。

十一月十九日 法勝寺供僧中、律師經賢、已講信永、阿闍梨勝教、行延四人、解供僧職。依候殿下辺也云々。殿下辺

事重歟。

十二月十六日 以大法師行澄宜為円宗寺法花会堅者。則以書状仰行事左中弁為隆了。件僧山人法勝寺十学生云々。

### 保安二年

十二月廿一日 参円宗寺。探題忠尋律師。堅者三井寺懷俊。〔法勝寺十学生也。〕一問已講覺基。

### 天治元年 (1124)

三月 一日 法勝寺御念仏初。

三月 廿日 院御幸法勝寺。供養丈六五大尊。始御修法。

三月廿七日 両院御幸法勝寺千僧御誦經。

六月 五日 七夜、氏院衆参入。興福寺法勝寺僧参。

天治二年

三月 十日

法勝寺念仏初。〈有御幸。〉

八月廿七日

本院御幸法勝寺御仏供養。

九月廿二日

法勝寺常行堂御念仏始。

大治元年  
(1126)

二月十三日

法勝寺千僧御誦經。〈本院御幸。〉

三月 十日

法勝寺念仏始。

十二月廿九日

兩院御幸法勝寺。有御仏供養。仁和寺宮阿闍梨五人。金剛寿院別当被仰付。〈心覺。〉

大治二年

正月 六日

法勝寺阿弥陀堂修正。

正月 七日

本院御幸法勝寺。有北斗御修法。〈北斗法七壇所被始行也。法勝寺北斗堂二壇、藥師堂五壇。皆仁和寺人々云々。〉

正月 八日

參円宗寺行修正。予召行事外記問云。「諸大夫、諸司、官人何人許詣法勝寺哉。諸大夫五人、諸司官人八人被分此御寺也。」予仰云。「件人々相分可令參各夜也。路遠之間每夜為人、為大事之故也。」檢非違使有貞參來云。

「從今年此御寺寄檢非違使所被仰下也。」

今夕三院御幸法勝寺。

此御寺上座信縁法橋、被成講堂供僧。修正之間列諸凡僧上、希有之列歟。但於別賞者不可云左右歟。

正月 九日 上達部殿上人被相分參法勝寺云々。

正月 十日 三院從鳥羽御幸法勝寺云々。

正月 十二日 三院御幸法勝寺云々。

正月 十三日 三院御幸法勝寺。呪師十五手御覽。

正月 十四日 御齋会午刻可被行也。有御幸法勝寺。權別當經尋僧都。真言宗長者權僧正勝覺。隆寬律師。弘覺。

已講覺樹、相仁。嚴意。忠胤。人々馳車被法勝寺。三院御幸已成。

二月 二日 白河新阿弥陀堂修二月。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月。

三月 七日 於法勝寺藥師堂有御仏供養。權僧正勝覺。法眼源覺。

三月 十日 法勝寺阿弥陀堂御念仏依例被始行。

三月 十二日 兩院早日依法勝寺北新造御堂供養御幸。仁和寺法親王為導師。

次渡御法勝寺金堂。供養丈六尊勝仏之次、每年人々所進之尊勝陀羅尼同供養。又七宝御塔並小塔一

万基供養。御導師山座主僧正仁実。題名僧卅口。〔山、三井寺、東寺人々皆參入。〕

渡御阿弥陀堂。例御念仏結願。

三月 十三日 千僧御誦經也。參法勝寺。早日兩院渡御金堂御所了。大僧正行尊。山座主僧正仁実。講師法印玄覺。

律師慶覺。唄師權少僧都應覺、禪仁。散花法眼相命、良実。三礼法眼源覺。

三月 十九日 兩院御同車。已時事畢御幸法勝寺。於金堂供養丈六大威德像一体、等身同像百体、御所東南角庇並

母屋皆悉安置仏像。導師大僧正行尊、律師慶実。法橋範算。

還御之後、於三条殿、御仏数体以權僧正勝覺被供養。

四月 廿三日 早日兩院御幸法勝寺云々。等身正觀音像百体、半丈六像一体於金堂供養。是新院御祈。導師仁和寺

宮。

五月 朔日 法勝寺卅講始被始行。

五月 三日 兩院渡御法勝寺阿弥陀堂。逢御卅講則還御。

五月廿五日 於法勝寺有千僧御誦經。〈觀音經〉。二院御幸。山階寺法印玄覺為導師。六月廿四日 兩院御幸法

勝寺愛染王供養。

七月廿五日 女院御產御祈。大般若經卅口御誦經也。權律師隆覺為御導師。已講二人。〈宗覺、豪覺〉。法勝寺住

學生三十人

九月 二日 以僧百口被轉誦觀音經。僧正三人。法印覺猷。僧綱。已講。法勝寺住學生等。權少僧都禪仁為導師。

九月廿二日 恒例法勝寺常行堂御念仏被始行。

九月廿四日 法勝寺常行堂御念仏結願。御導師靜嚴。

十月廿四日 法勝寺大乘會始也。講師維覺闍梨老者。

### 大治三年

正月廿四日 院御幸法勝寺、有千僧御誦經。

三月 十日 法勝寺御念仏初。

三月十六日 本院御幸法勝寺百体御仏供養。

九月廿二日 法勝寺御念仏初。

九月廿四日 法勝寺御念仏終。

〔1129〕  
大治四年

正月 四日 法勝寺阿弥陀堂修正。

正月 八日 三院御幸法勝寺。御覽呪師。〔十五手。〕且是節分之夜也。自然御方違云々。

正月十四日 三院御幸法勝寺。呪師十五手。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月。

三月十二日 於法勝寺有千僧御誦經。仁王經、万部經。院御幸。法印玄覺總導師。

三月十九日 本院御幸法勝寺。於五大堂、丈六御仏三礼、等身御仏卅礼供養。仁和寺宮御導師。

証菩提院供養。忠尋僧都為導師。件院八故堀川院中宮御願。建立法勝寺南大門西腋地。供養先了。

其後燒亡。大殿御沙汰間、又建立御堂北僧房地供養。去年山座主自院被成彼寺別当。後壞渡尊勝寺

南地。今日供養本院御沙汰也。彼寺領庄園皆山座主依被沙汰。以寺領庄園力功皆渡也。

兩院新院御幸法勝寺阿弥陀堂有御念仏云々。八十学生七箇日御念仏者。

今朝本院御幸法勝寺。依御念仏結願也。

五月 朔日 法勝寺卅講始。〔十五日。〕

五月十五日 法勝寺卅講結願云々。

七月十五日 今夕太上法王御葬送也。白河新御堂阿弥陀護摩九壇。

怪異、去年八幡璽御筥及大破也。是大怪歟。人々夢中□法勝寺九重塔破損。禪定法皇御在位間希代

勝事、嵯峨御幸、殿上歌合。殿上賭射。法勝寺、白河新堂、証金剛院、〔鳥羽。〕

今日七ヶ日御誦經〔法勝寺、白川新堂勝金剛院、香隆寺、已上每度殘三ヶ寺相替云々。〕

閏七月廿日 依院宣上達部早可參法勝寺者。是故院御法事可被行之故也。

今日故院御法事也。相具宰相中将參入法勝寺。阿弥陀堂東面中央間立仏臺。導師法印覺猷。法印玄覺。読師少僧都実覺。唄法眼仁惠。散花律師覺基。呪願法印覺猷。堂達已講覺樹。三禪律師慶覺。今日御法事之間必雖可有御幸。明日必渡御法勝寺行小仏事。

閏七月廿一日 法勝寺阿弥陀堂、令逢講説給。仁和寺花藏院宮令供養仏経給也。講師已講覺心。是於三条殿雖可被供養、依吉日御幸白川有供養也。

閏七月廿五日 御幸法勝寺阿弥陀堂。呪願法印覺猷。玄覺読師。権少僧都隆信就礼盤礼仏。堂達已講覺樹取御願文授導師。唄権大僧都経尋。権律師覺基行道堂中。三礼権律師慶覺。

九月廿二日 法勝寺常行堂御念仏始。講師禪仁僧都。

九月廿四日 法勝寺御念仏結願。

十月廿八日 大乘会結願。三礼已講済実。律師四人〈覺樹、南京三会。隆豪、北京三会。承意、天台灌頂。寛惠、東寺灌頂。〉法務信澄〈元大僧都、東寺一長者。〉西大寺別当〈已講覺譽。〉阿闍梨五人宣旨下。〈永慶。仁命。良修。勝尊。寺文実。〉

十二月廿八日 白河新造御塔供養也。御幸白河御所。女院留給白河御所。院留御法勝寺御所。

### 大治五年

正月 八日 御齋会。予依為円宗寺上卿、參向彼寺、法勝寺上卿民部卿、右少弁。

正月十二日 去夕院依御方違御幸法勝寺阿弥陀堂御所。

二月 二日 白河新阿弥陀堂修二月也。

二月 八日 法勝寺常行堂修二月也。

二月廿四日 院於法勝寺被行千僧御読経。〈仁王経〉講師大僧都禪仁。

三月 十日 法勝寺御念仏初日也。

五月 一日 法勝寺例卅講始。〈毎日三座行。〉

五月 三日 院御幸法勝寺。令逢卅講給云々。

五月 六日 院御幸法勝寺。令逢卅講給云々。

五月 十日 法勝寺卅講結願。

五月廿五日 於西对故院御方有御仏供養。導師権大僧都忠尋。権少僧都慶覚。召加法勝寺任学生。

七月 二日 白河九体新阿弥陀堂供養也。故院一周関御法事也。講師興福寺別当権大僧都経尋。読師律師慶覚。唄

権少僧都源覚。散花師法眼良実。堂達已講覚雅。講師権僧正覚猷祝願。三礼権少僧都定海。

七月 七日 故院御正日也。仍於法勝寺阿弥陀堂被□川法事。講師興福寺別当経尋大僧都。祝願権僧正覚祐、

威儀師経尋、定海。唄師良実。散花師隆覚。堂達已講覚晴。

七月十五日 法勝寺初孟蘭盆。於阿弥陀堂西庇儲饗座、大僧都禅仁以下供僧六十人許参入。禅仁講師。

九月廿二日 故中宮御忌日。法勝寺常行堂御念仏始。導師権大僧都禅仁。

十月 四日 今日院御仏供養云々。先御幸法勝寺金堂。愛染王百体被供養。導師仁和寺宮。

十月十六日 今朝維摩堅義被仰下云々。隆順。清諶。〈法勝寺十学生。〉

十月廿四日 法勝寺大乘会始。講師三井寺実円阿闍梨。

十月廿五日 入夜被行法勝寺大乘会。

十月廿八日 法勝寺大乘会結願。

長承元年<sup>(1132)</sup>

正月 八日 院御幸法勝寺、尊勝寺、最勝寺云々。



正月廿一日 院於法勝寺、被行千僧御誦經。午前御幸。導師法印權大僧都禪行。誦師權少僧都相命。大行道散花覺樹隆覺律師。三礼少僧都良実。

正月廿八日 法勝寺御塔供養來月廿八日也。

二月 二日 白河新堂修二月也。

三月 二日 院於法勝寺金堂如法仁王会被行也。法印大僧都忠尋、兼講師山座主。法眼兼覺。講師、僧綱十余人。唄少僧都源覺、定海。散花少僧都相命、良実。呪願大僧正行尊。三礼權律師覺基。

三月 十日 法勝寺阿弥陀堂御念仏始也。

三月十二日 依御念仏昨日御幸法勝寺之次。

三月十三日 今日請僧大略召法成寺塔供養僧侶也。寺家司上座法眼信縁、供僧大法師靜慶。三井寺法勝入寺僧。嚴順。山。靜湛。南京。已上法勝寺住学生。

閏四月十七日 院於法勝寺、千僧御誦經被行。皆延曆寺僧侶。御幸成。講師法印大僧都忠尋。誦師仁(仁上恐脱字)唄師二人法橋維覺、好豪。散花二人已講相仁、隆教。呪願少僧都相命。

五月 一日 法勝寺卅講始。有御幸者。

五月 二日 院御幸法勝寺卅講。

五月 四日 院從鳥羽還御之次、渡御法勝寺卅講。

五月十八日 院今日於法勝寺金堂如法百座仁王会被午前御幸。座主法印忠尋総講師。律師寬惠為誦師。律師覺譽。權律師覺心、覺基。散花呪願法眼信縁。三礼法橋維覺。

五月廿七日 最勝講五ヶ日皆得晴也。今日内御物忌也。結願也。朝座已講弁覺。問者覺智。夕座講師已講覺晴。

問者覺賤。講師、真源、濟円。問者有観、晴謀、覺智。呪願公伊法印。三礼真源已講。僧正覺猷。權僧正增智。大僧都頼基。少僧都隆覺。覺基。慶実。覺樹。永巖。寬澄。醍醐寺座主治海。定海讓。

法勝寺覺譽。嘉祥寺源覺。無動寺行玄。教実。仁譽。覺仁。覺第。範覺。章譽。仁譽。懷住。尊称、  
 〈法勝寺少僧都相命。〉

十月 三日 白河新御願供養習礼也。御幸成。僧綱両三人並法勝寺最勝寺諸堂長講承仕等衆僧代四五十人許參入。  
 十月 七日 有樂事。樂八承曆法勝寺塔供養式經信卿所作有樂。以件定所入也。

十月廿四日 大乘会初日也。院有御幸。参□行向法勝寺□巡之处□簾為御所。大僧都証觀。講師二井寺信智。  
 問者隆覺僧都。

### 長承二年

正月 八日 院女院御幸法勝寺金堂云々。每夜可有御幸云々。修正也。法勝寺円勝寺左少弁顯業兼行。

正月十七日 院於法勝寺、被行千僧御誦經。仁王經廿部。御導師忠尋權僧正、誦師覺基僧都。唄二人、散花二人、  
 權少僧都隆覺、覺樹。

三月 十日 法勝寺阿弥陀堂例御念仏初日也。今日三ヶ日院御幸云々。

三月十二日 御念仏結願也。院今朝御幸云々。御導師相仁已講也。僧綱禪仁法印。

五月 一日 法勝寺例卅講始也。御幸法勝寺阿弥陀堂御所。山座主權僧正忠尋。權少僧都覺基、隆覺、覺樹。律  
 師覺譽、覺晴。法橋維覺。已講道祐、眞源、相仁、濟円、覺雅。十学生卅人。

七月 三日 法勝寺白河院御八講始也。於阿弥陀堂被行。院有御幸。朝座講師權少僧都覺樹。夕座講師權少僧都  
 隆覺。

七月 四日 院御幸法勝寺八講云々。

七月 五日 院御幸白河御八講云々。

七月 七日 白河院御国忌御八講結願也。已一点参法勝寺阿弥陀堂。院御幸。講師已講覺雅。問者覺智。覺嚴僧

都。呪願隆觀少僧都。隆覺。覺譽。覺心。覺晴。已講道祐。濟実。弁覺。夕座講師權少僧都覺樹。問者有觀。

七月十五日 法勝寺阿弥陀堂□院御幸。先孟蘭盆講。講師權少僧都覺基。講師權律師覺譽。問者忠胤。兼覺法眼護摩。

八月 七日 院御幸法勝寺阿弥陀□故□院月忌也。

### 長承三年

二月 八日 法勝寺常行堂修二月。

二月十四日 一切經會習礼。院御幸法勝寺。

二月十七日 院於法勝寺金堂被供養金泥一切經供養。仍有行幸。法勝寺金泥一切經供養僧名。御室大僧正行尊。

呪願、僧正覺猷。引頭、法印權大僧都行慶。唄、法印權大僧都禪仁。散花、權少僧都隆覺。導師、權僧正忠尋。引頭、法印權少僧都最雲。唄、法印仁証。散花、權僧都行玄。權少僧都覺基。法眼信縁。応仁。權律師觀惠。覺心。覺晴。隆襲。法橋公觀。道祐。豪覺。相仁。濟実。垂覺。信知。覺勝。巖順、宗算。玄円。相源。応源。陽源。尊珍。快心。明禪。宗巖。良澄。朝円。猷乘。覺顯。有觀。猷実。權少僧都慶実。法眼兼覺。權律師覺譽。林覺。永巖。覺定。法橋真源。範算。覺智。濟円。信慶。寬譽。覺雅。覺顯。兼円。勝真。俊源。範延。晴謀。晴縁。尊繼。最巖。巖寬。禎意。賢覺。仁祐。実増。俊恵。尊実。静祐。濟愉。行顯。禪覺。相意。尋季。忠春。源豪。仁愉。良恵。覺仲。覺真。道覺。俊増。心増。心觀。覺証。実縁。有幸。静喜。仁巖。良勝。覺範。静経。寬澄。忠觀。行範。寬遍。光海。兼賢。尊覺。寬深。俊智。道源。聖暹。覺豪。玄雅。覺珠。長祐。禪智。増快。覺智。覺兼。証禪。兼智。寬尊。寬做。隆助。覺義。晴俊。覺珠。覺昭。珠覺。経有。教縁。

玄縁。覺幸。重助。禪寬。覺海。仁助。最仁。惠珍。仁賀。宴仁。良基。真仁。信円。仲秀。尊譽。增經。覺禪。心覺。賢智。祐智。行昭。覺惠。敏光。房覺。玄弘。濟源。玄有。玄顯。忠勝。季玄。增勝。信顯。隆雅。經有。定源。公覺。行兼。源勝。暹真。維嚴。勝実。相祐。

三月 十日 法勝寺御念仏始。院有御幸云々。

三月廿六日 於法勝寺被行千僧御誦經。白河院御幸。大僧正行尊。僧正覺猷。山座主權僧正忠尋為講師。

五月 一日 法勝寺例卅講始。

七月 三日 於法勝寺阿弥陀堂故院御八講始。五箇日。山座主權僧正忠尋。

九月廿二日 法勝寺常行堂御念仏始。

(1135)  
保延元年

三月 五日 於法勝寺被行千僧御誦經。仁王經。総導師証觀法印。

三月 十日 法勝寺阿弥陀堂御念仏始。三箇日。〳

四月廿三日 院法勝寺被行如法百座仁王会云々。

五月 一日 法勝寺卅講始。十ヶ日。院御幸云々。〵

五月 五日 院於法勝寺、一日書写大般若供養。院於法勝寺金堂、一日大般若転誦。僧二百口。座主忠尋僧正。

五月 十日 法勝寺卅講結願。有御幸。大略毎日御幸。

七月 三日 法勝寺御八講始。於阿弥陀堂行之。座主權僧正忠尋。法印証觀為証義。院有御幸。

七月 七日 白河院御忌日。御八講結願也。參法勝寺阿弥陀堂。院女院御幸。朝座講師覺雅已講。夕座講師律師

覺譽。

七月十五日 法勝寺孟蘭盆。院有御幸。

保延二年

正月廿九日 於法勝寺有千僧御誦經。依催進仁王經十部。兩院有御幸云々。

保延三年

正月 七日 行幸法勝寺常行堂。

正月 八日 兩院御幸法勝寺修正。

正月廿八日 於法勝寺千僧御誦經。依催進上仁王經十部。

七月 三日 院從今日五ヶ日之間、於法勝寺阿弥陀堂為故白河院御被行八講。〔大僧正忠尋雖召、依所勞不參也。〕

初日朝座講師法印權大僧都隆覺。〔兼証義者。〕問者忠俊阿闍梨。夕座講師權律師宗覺。問者覺珍得業。

七月 四日 朝座講師權律師覺雅。問者禪智阿闍梨。夕座講師法橋維覺。問者覺智阿闍梨。

七月 五日 朝座講師忠依已講。問者教覺得業。夕座講師信慶已講。問者頭惠得業。

七月 六日 朝座講師弁覺已講。問者玄緣得業。夕座講師覺譽已講。問者惠珍得業。

七月 七日 朝座講師寬勝已講。問者玄雅得業。夕座講師權少僧都覺譽。問者覺豪阿闍梨。〔頭書〕依御忌日有御經供養。大略每日御幸。

十月廿四日 大乘会始。講師山之嚴俊。件僧法勝寺(三)十學生一臘。年及八十二云々。

十二月十七日 節分也。為御方違有行幸法勝寺。

保延四年

正月十七日 於法勝寺千僧御読経。依催進上仁王經十部。

正月廿六日 依御方違有行幸法勝寺。